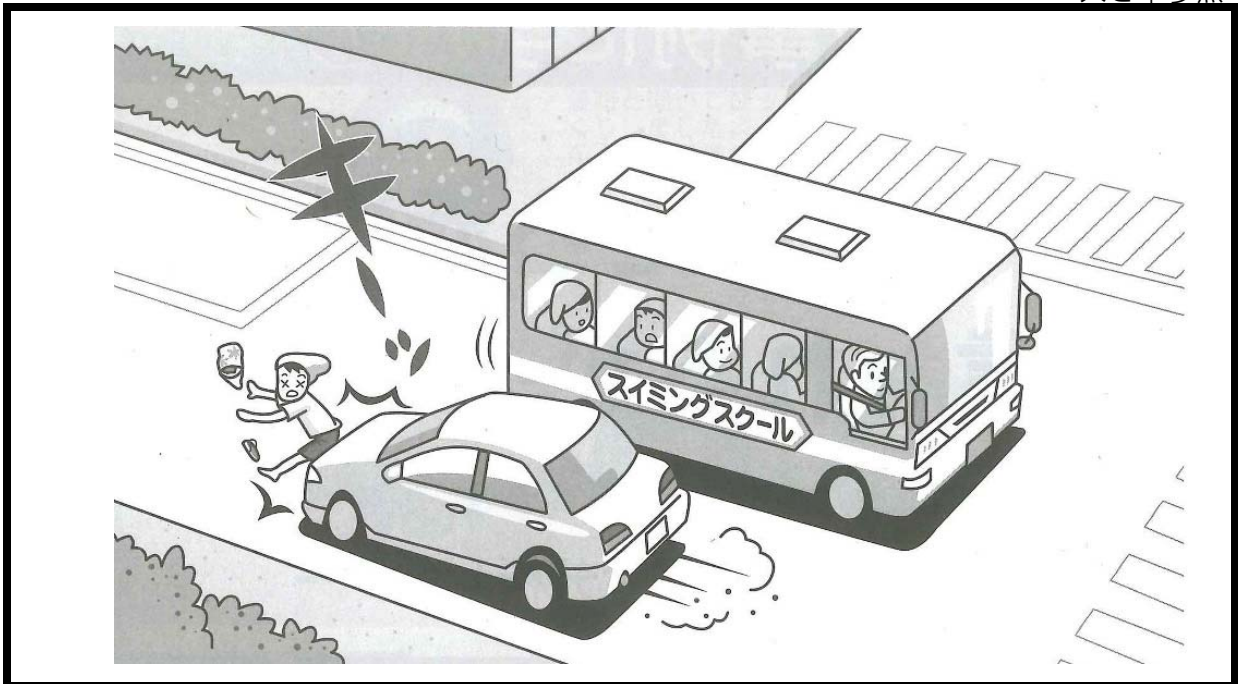


■事故の概況

人と車参照



事故類型：人対車両

発生日時：晩夏 夕暮れ時

当事者A：普通乗用車 20歳代 女性

当事者B：歩行者 小学生 女性

■ 事故の概要

Aは、対向車線に停車中のスイミングスクールバスとそのバスを追い越してくる車両を発見して減速しました。バスとすれ違った後、バスの後方にBが立っているのを見て「横断しそうだな」と思い、更に時速約20kmまで減速しました。

Bが立っているところまであと約10mに接近した時、Bが駆け足で横断してきたので急ブレーキをかけましたが間に合わず衝突しました。

一方Bは、スイミングスクールバスを降りて、バスと同じ方向に歩いていました。バスがBを追い抜いた直後、バスの後方からさっと左右を確認し、左側からA車が接近しているのに気づきましたが、速く走れば渡れると判断し、横断を開始しましたがサンダル履きだった為、思ったようにうまく走れず、A車と衝突しました。

■ 事故から学ぶ

事故前に対向車線でバスを追い越してきた車両とすれ違う際に減速し、さらにBを発見した時には時速約20kmまで減速をしていたので、Aは何か危険があっても十分に停車できる速度だと思っていました。時速約20kmでの停車距離は約6mですが、運転者がブレーキを踏むまでの時間が長かったり、ブレーキの踏み具合が適切でなかったりすると、停車距離は延びます。Aは速度と停車距離の判断を誤ったのです。

子供は思いついたらすぐ行動に移しやすいので、運転者は子供の行動に細心の注意をはらいましょう。子供を発見して「横断しそうだ」と予測した時点で、停止するくらいの気持ちで運転をしましょう。